

ひしわ園

俳句を楽しむ会
優秀作発表

三つの和をひきあわせ

和(なごみ)抹茶入り
和(なごみ)抹茶入り
和(なごみ)抹茶入り



お茶の持つ味と香りを
最大限に引きだし
時間をかけ
ていねいに仕上げました

暮らしの中でお茶が中心となった
句がたくさん出てきました。
皆様の楽しいお茶が目に浮かぶようです。
菱和園では日本茶インストラクター、日本茶アドバイザーによる、第三回「おいしいお茶の入れ方教室」を
新春月中旬に開催する事になりました。
参加ご希望の方は新年二月十日までにハガキで
菱和園までお申し込みください。



一番茶母となりたる子に持たす

(上野原) 原田花穂

夏も近づくと八十八夜、その頃に「新茶売り初めました」などと街に表示がでる
積み初めて十五日間のものが一番茶だといふ。
初めて母親になられた娘さんの里帰り、お土産は迷わず、うつつけの一番茶。

帰省子のお茶の入れかたなかなかに

(大月) 小林秀子

夏季休暇に生家に帰った男の学生である。待ちかねていた家族との賑やかな毎日、
下宿での自炊生活も板につき、家事手伝いなどもそつがない。
「お茶の入れかたなかなかに」目を細め眺めているお母さん。

大薬缶飯場にどかと麦茶あり

(甲府) 米山正雄

飯場は土木工事などに仮設する作業員の休息所。
最近機械化が進んだとはいっても労働力はなくてはならず、汗も沢山かくだらう。
飯場に置かれた大薬缶、中には冷たい麦茶がはいはい。暑い夏でも生きがえる。

爽やかに茶筒のポンと開く日かな

(都留) 川上山査子

どこの家庭にもある製茶を貯えておく筒形の容器。
筒を開けるのに使った主婦なら願望だが、開れない者には厄介なもの。
それが今日はいい音をたてて、ポンと開いた。今日もさわやかな日がある。

残暑を来冷茶を客のいつき呑み

(甲府) 高木ふく子

「お久しぶりです」はるばる訪ねてくれたお客さん。満面に汗がはいはい。
先ずはと差し出した冷茶に「ありがたう」の言葉もそそぞそ。
こくりこくりといつき呑み、今年の残暑は、特に暑かった。

佳作

新緑や下げし冷茶の筒鳴れる

(甲府) 松田 茂雄

乾杯で結ぶ友がき冷茶汲む
(甲州) 古家 福治

ガラス器に麦茶を貰ふ庫裏の風
(身延) 望月 眞澄

暑いときは熱いお茶をと言いつき母
(甲府) 小池 昌代

茶畑や井戸水うまさ村に老ゆ
(上野原) 原田 敏夫

車椅子とどく所に置く新茶
(笛吹) 大森 隆

麦茶煎る磨き光の大薬缶
(身延) 千須和 清光

秋祭下戸になみなみ玉露の茶
(都留) 長田 美智子

犬の名を三つ考え麦茶汲む
(甲斐) 小田切福太郎

隣田も呼んで「お茶だよ」罽雲
(大月) 奈良 文一

故郷の夜景を眺め麦茶汲む
(大月) 湯沢 正典

ひとしづく終りまでかき上げ新茶かな
(甲府) 横田 義雄

新盆の揃わぬ茶器に冷茶汲む
(南巨) 中野 弓子

こだわって富士湧水の新茶かな
(富士吉田) 小山田健文

朝の茶事湯呑み冷たく目醒め小山田健文
(身延) 小林 利典

麦茶にて和みの刻や畑仕事
(大月) 湯沢 正枝

此の色香孫敬老の日の茶摘む
(中央) 中瀬 毅

次回作品募集のご案内

● 次の応募締切は十二月三十一日(木)消印有効になります。
● テーマは、煎茶や番茶など、過ぎゆく秋の中で楽しむお茶の俳句を募集します。
● 応募頂いた作品の中から優秀な作品には素敵なプレゼントを用意しています。
● 発表は年四回新聞にて発表します。

選者は県内で俳句活動を行われている渡辺柳風先生にお願いいたします。
(先生には選考にあたり表現上の添削もお願いしてあります。ご了承下さい)

応募方法 ● ハガキで菱和園本店まで郵送していただくか、左記直売店までお持ちください。お一人様何点でも応募できます。● 応募いただく作品は未発表のものに限ります。また、応募作品は返却いたしません。● 作品には応募者の住所、氏名、年齢、電話番号をご記入ください。ペンネームで応募される方はペンネームの下に(本名)を括弧で囲んでください。

味と香りの「ミニユニケーション」

ひしわ園

本店 山梨県甲府市太田町四一七
TEL:055(23)50075

直売店 ● 太田町本店 ● ジョイ店
● リバーシティ店 ● 湯村店

ご応募いただく個人情報が入選作品のプレゼント発送に利用します。また、菱和園からの季節の知らせにも利用させていただきます。必ず、必要でない方は、その旨応募時のハガキ裏面に記入願います。この目的以外の個人情報利用は行いません。